

ニュースクリップ & 映像教材

- 「2006年教育映像祭優秀映像教材選奨」募集開始
- 「生涯学習情報提供の在り方に関する調査研究」報告から
- 平成18年度情報教育対応教員研修全国セミナー
「すぐに役立つ！情報モラル指導者セミナー」
- 「New Education Expo2006」開催
- 第26回「地方の時代」映像祭作品募集

協会情報

■「2006年教育映像祭優秀映像教材選奨」募集開始

日本視聴覚教育協会主催による標記選奨は「教育に利用される映画、ビデオ、DVD、スライド、コンピュータソフトウェア（CD-ROM）等、映像教材の制作と利用の向上進展を図る」ことを目的に、次の要領で開催される。

1. 参加部門

①映画の部＝学校教育部門（小学校・幼稚園を含む、中学校、高等学校）、社会教育部門（家庭生活・市民生活・職能教育）、児童劇・動画部門、教養部門
※昨年までの職能教育部門は、本年から社会教育部門職能教育領域に変更。

②ビデオの部（DVD・スライドを含む）＝学校教育部門（小学校・幼稚園を含む、中学校、

高等学校）社会教育部門（家庭生活、市民生活）職能教育部門、動画部門、教養部門

※本年より、動画部門を新たに追加。

③コンピュータソフトウェア（CD-ROM）の部＝学校教育部門（小学校・幼稚園を含む、中学校・高等学校）一般教養部門
2. 参加資格〈各部門共通〉

日本の製作者作成のもので、平成17年6月1日～平成18年5月31日までに完成し、一般に市販されるもの。

3. 参加本数

映画＝制限なし。ビデオ＝1社15本まで。ただし各部門における参加本数はそれぞれ3本以内。CD-ROM＝9本まで。シリーズの参加は認めない。

4. 表彰〈各部門共通〉

- 最優秀作品賞（文部科学大臣賞、日本視聴覚教育協会会長賞）
- 優秀作品賞（日本視聴覚教育

協会会長賞）

5. 締切・問い合わせ先

平成18年6月1日(木)までに、下記へ申し込むこと。

応募にあたっては、下記アドレスより、要領・出品申込書をダウンロードのうえ、申し込むこと。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 視聴覚ビル

(財)日本視聴覚教育協会

TEL 03-3591-2186

FAX 03-3597-0564

<http://www.javea.or.jp>

※なお、教育コンピュータソフトウェア部門において、来年度以降、DVD-ROM教材・イントラネット教材の選奨導入を検討する目的で参考出品を募ることとなった。詳しくは、上記へ問い合わせいただきたい。

文部科学省情報

■「生涯学習情報提供の在り方

ブックレビュー



「博物館の学びをつくりだす—その実践へのアドバイス—」

小笠原喜康；チルドレンズ・ミュージアム研究会編著 ぎょうせい 2006年2月刊 A5判 199頁 2,000円(税込)

書名が示す通り、かなり意欲的な一冊である。さらに言えば、挑戦的・挑発的でもある。チルドレンズ・ミュージアム研究会のメンバーが実践活動から得られた貴重な知見とノウハウを整理し、博物館関係者に分かりやすく紐解いてくれた実践的なマニュアル、それが本書である。

最終ゴールとして「博物館教育学」を標榜しながらも、研究会の地道な教育普及活動を通して博物館での「学び」を考察した、近年稀に見る好著である。

実践編とアドバイス編の2編に分かれ、実践編では、考古学、科学館、美術館、動物園などで展開される教育活動の独創的な試みが紹介されている。アドバイス編では、発見を促すワークシートや博物館と学校のコミュニケーションづくりなど、的確

なアドバイスが満載されている。

日本の博物館は3C、つまりコピー（欧米博物館の模倣）、コントロール（啓発よりも管理）、チェイス（後追い）と皮肉られているが、本書を読んで実践活動の幅を広げていけば、3I、つまりアイデンティティ（主体性、ユニーク性が際立ち）、イマジネーション（創造、想像が生まれ）、イノベーション（革新、変革すること）が可能になるだろう。

学校教員や博物館関係者はもちろん、毎年数千人を越える博物館実習生や学芸員養成課程の大学生、博物館を裏側から支えるボランティア、博物館の教育活動に「疑い」をもつ学校教員に読んでもらいたい本だと感じた次第である。

（水嶋英治）

に関する調査研究」報告から

文部科学省では「生涯学習情報収集・提供検討会」（主査：清水康敬独立行政法人メディア教育開発センター理事長）の検討結果を踏まえ、国立教育政策研究所が運営する教育・学習情報のポータルサイト「教育情報ナショナルセンター（NICER）<http://www.nicer.go.jp/>」において、生涯学習情報の大幅な拡充を図るとともに、初等中等教育における学習情報についても拡充した。拡充された情報は以下の通り。

1. 国が提供する生涯学習情報（国の各府省が提供する政策、統計、学習機会、資格等に関する情報）
2. 地域が提供する生涯学習情報（都道府県等の地域が提供する教材、資格等に関する情報）
3. 初等中等教育における学習情報（独立行政法人科学技術振

興機構（JST）の『理科ねっとわーく』（科学技術・理科教育のためのデジタル教材情報）

なお、この検討会による報告書から、本誌6月号において、詳細を掲載の予定。

研究会情報

■平成18年度情報教育対応教員研修全国セミナー「すぐに役立つ！情報モラル指導者セミナー」

（社）日本教育工学振興会では、標記セミナーを、情報教育を推進する指導主事・情報教育担当教員および一般教員を対象に開催する。

〈開催日時〉

平成18年6月3日（土）

13:00～16:30

〈会場〉

園田学園女子大学情報教育センター（兵庫県尼崎市南塚口町7-29-1 [\[u.ac.jp/access.html\]\(http://www.sonoda-u.ac.jp/access.html\)）](http://www.sonoda-</p>
</div>
<div data-bbox=)

〈内容〉

13：10～13：50

講義「学校における情報モラルの指導について」講師：石原一彦（岐阜聖徳学園大学助教授）

13：50～14：30

事例発表「さまざまな学習場面で広がるIT活用と情報モラル」発表：京都市立藤城小学校 14：30～15：00

グループセッション「困っていませんか？情報モラルの指導」をテーマに受講者同士で情報共有

15：30～16：30

総括講演「情報モラルをどう捉え、どう実践していくか」講演：永野和男（聖心女子大学教授）〈定員〉

100名。申し込み多数の場合には、抽選。

〈資料代〉

無料

〈申込締切〉

平成18年5月19日(金)

〈問い合わせ先〉

(社)日本教育工学振興会

TEL 03-5251-0751

http://www.suzukisoft.co.jp/
seminar/hyogo/

■「New Education Expo 2006」開催

New Education Expo2006実行委員会主催による標記セミナーが、東京と大阪で開催される。

教育関係者に、新しい学校教育現場についての情報を提供し、また考えていく「場」を提供することを目的に、第11回を数える今回は、「新学習指導要領に対応した教材整備」「教育の情報化」「環境対応施設設備」「あたらしい学校づくり」「これからの授業運用実践」等をテーマに、講演、各学校の実践事例発表等を行うとともに、教育関連の展示会を開催する。

〈開催場所・開催日〉

○東京会場：平成18年6月1日(木)～3日(土)／東京ファッションタウン・TFTビル(東京都江東区有明3-1)

○大阪会場：平成18年6月7日(水)～8日(木)／大阪マーチャングイズ・マート(大阪府中央区大手前1-7-31)

〈内容〉

○基調講演

樋口修資氏(文部科学省大臣官房政策評価審議官)、清水康敬氏((独)メディア教育開発センター理事長)、鳥居泰彦氏(中央教育審議会会長)、坂元昂氏(前文部科学省メディア教育開発センター所長)、銭谷眞美氏(文部科学省初等中等教育局長)〈詳細ならびに申し込み〉

詳細は、順次決定のつど、下記ホームページにて公開。参加申し込みもホームページから。

http://expo.uchida.co.jp

〈問い合わせ先〉

New Education Expo事務局

(株)内田洋行 教育システム事業部営業企画課内

E-Mail: expo@uchida.co.jp

TEL 03-5634-6397

FAX 03-5634-4088

コンクール情報

■第26回「地方の時代」映像祭作品募集

「地方の時代」映像祭実行委員会(川崎市、日本放送協会、日本民間放送連盟、東京国際大学)の主催による本映像祭では、新しい文明としての「地方の時代」を切り開くために寄与した映像作品の交流と顕彰を目的に、作品を募集する。

〈部門・参加資格〉

1. 放送局部門
全国のテレビ局。
2. 市民・自治体、CATV局部門
全国の自治体、市民グループおよびCATV局。
3. 高校生部門
全国の高等学校および高校生グループ。

〈参加作品の種類〉

1. 放送局部門
ドキュメンタリー、報道作品。
2. 市民・自治体・CATV局部門
地域文化の継承や創造、地域の自立・交流を志向する作品。
3. 高校生部門
高校生の視点で「地域」や「国際交流」などを描いた作品。

〈募集期間〉

平成18年7月3日(月)～7月31日(月)消印有効。ただし、高校生部門は、8月14日(月)消印まで有効。

〈贈賞〉

全参加作品の中から、グランプリ(1点、賞金100万円)のほ

か、賞状・賞金を贈呈。

〈問い合わせ先〉

東京国際大学 第2キャンパス内「地方の時代」映像祭実行委員会事務局

TEL 049-232-3111 (代)

短 信

■文部科学省生涯学習政策局参事官付の異動

○参事官補佐 西岡裕介氏→長岡技術科学大学総務部長(後任:教育メディア調査官=坪内孝治氏)

○参事官補佐 濱田幸夫氏→筑波大学図書館情報メディア研究科講師(後任:なし)

○教育メディア調査官 坪内孝治氏→参事官補佐(後任:高知大学秘書課長=津久井賢氏)

○庶務係 太田宏嗣氏→メディア係(映画審査担当)(後任:なし)

○メディア係(映画審査担当) 池田久美氏→山形大学総務部人事課任用係(後任:庶務係=太田宏嗣氏)

○ネットワーク係長 小島容子氏→男女共同参画学習課男女共同参画推進係長(後任:企画調査係長=原田清光氏)

○企画調査係長 原田清光氏→ネットワーク係長(後任:係廃止)

○教育情報施策調整係長 塚部暢之氏(前原子力安全・保安院原子力防災課核物質防護対策室核物質防護第一係長)

○学習情報係 本江隆典氏(前富山大学病院事業部医療サービス課)

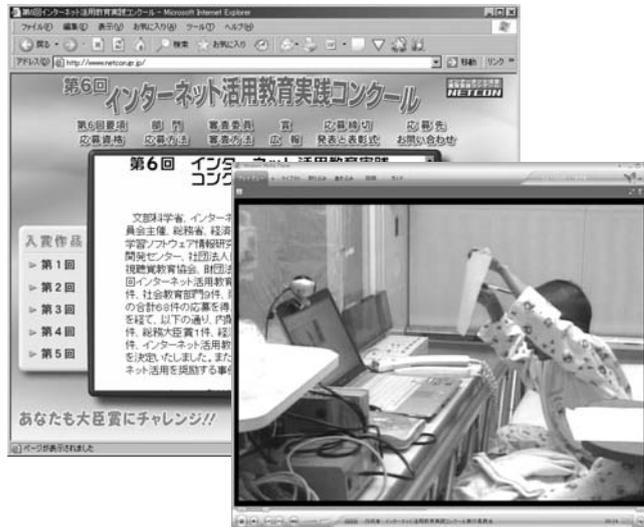
■(財)日本放送教育協会は、4月1日付にて下記へ移転した。(住所)〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町41-1 第一共同ビル
TEL03-5457-8800
FAX03-5457-8801

トピックス

「第6回インターネット活用教育実践コンクール」報告書・映像資料を公開
インターネット活用教育実践コンクール実行委員会
(<http://www.netcon.gr.jp>)

前号にて、標記コンクールの入賞事例集を掲載したが、このほどインターネット上に、報告書(PDF形式)と、審査のために作成された映像資料(WMV形式)が公開された。実践事例は以下のとおり。

信州大学医学部附属病院(長野県)、つくば市立二の宮小学校(茨城県)、どこでも竹とんぼ教室を!リーダー会(東京



都)、ライブ!ユニバース(東京都)、NPO法人国際教育推進プロジェクトBeCOM(千葉県)、北海道雪プロジェクト(教員・研究者等の研究グルー

プ)(北海道)、岐阜市教育研究所(岐阜県)、e-Kokoro協議会(大阪府)、八幡市教育委員会(京都府)、富士宮市立富士根南小学校(静岡県)

トピックス

『地上デジタルテレビ放送の教育活用促進事業』モデル事業成果発表会を動画で公開
デジタル放送教育活用促進協議会(<http://www.chidigi.jp/>)

既報のとおり、標記事業の成果発表会が平成18年3月3日東京・有明TFTビル906研修室において開催されたが、この模様を動画で視聴することができるようになった。内容は以下のとおり。

〈事業説明〉生田孝至(新潟大学教育人間科学部教授)

〈成果発表〉千葉県船橋市CDT研究協議会、東京地区地上デジタル放送教育活用促進協議



会、富山地域デジタルテレビ教育利用研究協議会、札幌市デジタル放送教育活用促進協議会、静岡市デジタル放送教育活用促進協議会、兵庫県デジタル放送教育活用促進協議会

〈パネルディスカッション〉
テーマ「わかる授業を創り出す地上デジタルテレビ放送の利用とは」司会 中川一史(金沢大

学教育学部教育実践総合センター助教授)パネリスト 久保昌也(千葉県船橋市教育委員会総合教育センター副主幹)井上文敏(東京都港区立神応小学校長)菊江賢治(日本放送協会教育番組センター(学校教育番組)チーフプロデューサー)金原正幸(静岡放送編成局業務部)

(敬称略)